

タイトル!! 『汐製菓会社の新作22
ガム4』

登場人物

- ・ 汐（しお）（30代）…汐製菓会社社長。
「面白きことも無き世を面白く」をモットーに、常に奇抜なアイデアを発案する。快活で、アイデアに対する情熱は人一倍。
- ・ 塩田（しおだ）（30代）…汐の秘書。真面目で几帳面、汐の突拍子もないアイデアに日々振り回されている。しかし、実はお菓子が大好きで、仕事に情熱を持っている。
- ・ 外国人たち…イベントや街角で登場。世界中から来た観光客たちで、様々なリアクションを見せる。

シーンⅡ 汐製菓会社の社長室

（舞台は豪華なオフィス。デスクには様々なサンプル商品が散らばっている。汐はデスクの椅子に座り、何かを深く考えている様子。）

汐「うーん……面白い……面白いガムか……
どんな味がいいんだ……？」

（塩田が書類を抱えて入室する。）

塩田「社長、お時間です。来月の新商品のプレスリリースについて打ち合わせを……」

汐（突然立ち上がる）「ケバブだ！」

塩田「……は？」

汐「ガムの新しい味だよ！ケバブ味のガム！これで世界中の人々を驚かせるんだ！」

塩田「ケバブ味……のガムですか？それは、い
ささか……風変わりすぎませんか？」

汐「風変わり？ 最高だろ！ 誰も考えたことがない味こそが、我々の強みなんだ！」

塩田「（心配そうに）しかし、消費者がどのよう
うに受け取るか……その、好意的な反応を得
られるかは……」

汐「心配するな、塩田！ 冒険なくして成功は
ない！ 今すぐ試作品を作らせよう！」

（汐はインターホンで研究開発チームに連絡
を取り、すぐにケバブ味ガムの試作を依頼す
る。）

シーン2: 研究開発室

（研究室では白衣を着た研究員たちが慌た
だしく動き回り、ケバブ味のガムを試作してい
る。）

研究員A「社長の言うことはいつも無茶だなあ……ケバブ味のガムって、一体どんな味になるんだ？」

研究員B「さあね。でも、汐社長のアイデアはいつも大ヒットするからな。きっと今回も……」

（塩田が部屋に入る。）

塩田「皆さん、お疲れ様です。社長の新アイデアについて、私も正直心配です。でも、あの方は成功を信じていますから、私たちも頑張らしましょう。」

研究員C「そうだな。とにかく作ってみよう！」

（試作品が完成する。）

研究員A「できましたよ、塩田さん！ケバブ味ガムです！」

塩田（緊張しながら）「……では、早速試食を……」

（塩田と研究員たちが試食する。微妙な表情でガムを噛み続ける。）

塩田「……こ、これは……」

研究員B「うん、確かにケバブ味だ……」

研究員C「……でも、ガムにする必要があったのか……？」

塩田「社長に報告しましょう。彼がどう判断するか……」

シーン③ 汐製菓会社の社長室

（塩田がガムの試作品を持って戻ってくる。）

汐「どうだ、塩田！ケバブ味ガムは成功か？」

塩田（慎重に言葉を選びながら）「ええ、味は確かにケバブです……ただ、その、消費者の反応がどうなるかは未知数で……」

汐（自信満々に）「未知数こそが面白さの鍵だ！ さあ、試してみよう！」

（汐がガムを試食する。）

汐「……ふむ！ 素晴らしい！ これは売れる！ 全世界の人々がこのガムに夢中になるだろう！」

塩田「（心配そうに）本当にそうなるといいのですが……」

汐「次は市場テストだ。まずは社員に配って意見を聞こう！」

シーン④ 社内テスト

（社員たちがガムを受け取り、恐る恐る試食する。）

社員A「……なんだこれ？」

社員B「ケバブ味のガムか……なんか、不思議な味だな……」

社員の「でも、結構クセになるかも……？」

（社員たちは困惑しつつも、ガムを噛み続ける。）

シーン5: 汐製菓会社の会議室

（社員たちの反応を集めて会議が開かれる。）

汐「さあ、みんな！ケバブ味ガムの意見を聞かせてくれ！」

社員A「正直、最初はどうかと思いましたが、意外とクセになるかもしれません……」

社員B「面白い味ですけど、万人受けするかは……」

社員の「個性的で、話題性は抜群だと思えます！」

汐「よし、決まりだ！ケバブ味ガムを大々的に売り出そう！」

塩田（内心で不安を抱えながら）「（心の声…どうなることやら……）」

シーンの商品発表会

（豪華な会場で、新商品発表会が行われる。各国のメディアやバイヤーが集まっている。）

司会者「皆様、お待たせいたしました！本日、汐製菓会社から驚愕の新商品が発表されます！その名も『ケバブ味ガム』！」

（観客たちがざわつく。）

バイヤー「ケバブ味のガム?!」

メディア「一体どんな味なんだ……?」

（汐がステージに登場する。）

汐「皆さん、こんにちは！私は汐製菓の汐です。今回は、我々のモットーである『面白きことも無き世を面白く』を体现する新商品を発表します！ケバブの味をガムで再現しました！」

（観客たちが驚きの声を上げる。）

汐「どうぞ、皆さんお試しください！」

（観客たちにガムが配られ、試食が始まる。）

シーン7: 海外での反応

(場面が海外の街角に切り替わる。観光地やショッピングモールなど、様々な場所で外国人たちがケバブ味ガムを試食している。)

ロンドンの街角

外国人A(イギリス人男性)「(日本語で)なんだこれ?ケバブの味が口の中で広がる……すぐくリアルだ!」

外国人B(イギリス人女性)「(日本語で)まるで本物のケバブを食べているみたい……でも、これガムなんだよね?」

外国人C(イギリス人男性)「(日本語で)なんだかクセになる味だな!」

ニューヨークの公園

外国人ロ(アメリカ人男性)「(日本語で)うわ、これ本当にケバブ味だ！どこで売ってるんだ？」

外国人四(アメリカ人女性)「(日本語で)ちよつと不思議だけど、美味しいわね！まさにガムの未来って感じ！」

外国人コ(アメリカ人男性)「(日本語で)友達にシェアしよう！絶対にウケる！」

パリのカフェ

外国人の(フランス人男性)「(日本語で)フランスの料理とは全然違うけど、これはこれでアリかも……」

外国人エ(フランス人女性)「(日本語で)まるでアートのようなガムね。こんな発想、日本人しか思いつかないわ！」

外国人^②(フランス人男性)「(日本語で)次に日本に行ったら、絶対にこれを買いためる！」

シーン⑧: 日本国内での反応

(場面が再び日本に戻り、国内のスーパーやコンビニでケバブ味が飛ぶように売れている様子が映し出される。)

消費者^③(日本人男性)「こんな味、初めてだ！面白いな！」

消費者^④(日本人女性)「友達にプレゼントしよう。話題になること間違いなし！」

消費者^⑤(日本人男性)「これ、外国人観光客にもウケそうだな。土産にぴったり！」

シーン⑨: 汐製菓会社の社長室

（汐と塩田が喜びの報告を受けている。）

社員▶「社長！ケバブ味ガム、大ヒットで

す！国内外で大反響を呼んでいます！」

塩田（驚きと喜びが入り混じった表情で）

「本当に……大成功ですね……」

汐（満足げに）「見たか、塩田！冒険を恐れなければ、こんなにも面白いことができるんだ！」

塩田「（微笑んで）ええ、社長。次もまた、面白い商品を作りましょう。」

汐「よし！次のアイデアが閃いた！『キムチアイスガム』だ！」

塩田「（驚愕しつつも笑顔で）社長、それも……やってみましょう！」

（舞台が完全に暗転する。）

終
わ
り